

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

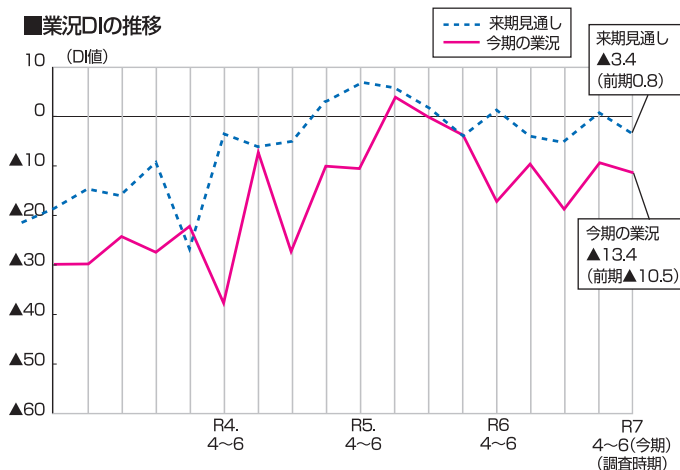
DI値	▲25P以下	▲25～ ▲10P未満	▲10～ ▲10P未満	10～ 25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↓	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↑

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 令和7年4～6月
回答企業数 152社

■業況DIの推移



今期業況は前期より横ばい。来期見通しも停滞し先行き不透明感がただよう。

【今期(令和7年4～6月期)の業況】
全産業の業況DI値は、▲13・4
(前期比マイナス2・9ポイント)
と前期から数値が減少した。産業別
に見ると製造業・小売業・サービス
業でDI値が減少し、建設業・卸売
業では増加した。特に卸売業は前期
比プラス17・1ポイントと大幅な改
善を見せた。

【来期(令和7年7～9月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲3・4
(前期比マイナス4・2ポイント)
と前期から横ばい。産業別で見ると
建設業が悪化し、小売業が大きく改
善しているほか、それ以外の産業で
は横ばいの数値となっている。

■産業別DI値表

		前期 [R7.1～3] (A)	今期 [R7.4～6] (B)	増減 (B) - (A)	来期見通し [R7.7～9]	
業況	全産業平均	▲10.5	▲13.4	▲2.9	▲3.4	→
	製造業	0.0	▲19.4	▲19.4	▲5.6	→
	建設業	▲36.4	▲25.7	10.7	▲20.6	↘
	卸売業	▲21.1	▲4.0	17.1	▲4.2	→
	小売業	▲12.5	▲13.0	▲0.5	26.1	↗
	サービス業	2.9	0.0	▲2.9	▲3.3	→
売上額	全産業平均	▲2.2	▲13.2	▲11.0	3.4	→
	製造業	▲2.9	▲24.3	▲21.4	▲11.1	↘
	建設業	▲31.8	▲29.4	2.4	▲11.4	↘
	卸売業	0.0	▲19.2	▲19.2	13.0	↗
	小売業	8.0	0.0	▲8.0	34.8	↗
	サービス業	8.6	12.9	4.3	6.7	→
資金繰り	全産業平均	▲8.2	▲7.4	0.8	▲4.1	→
	製造業	▲11.8	▲18.9	▲7.1	▲8.3	→
	建設業	▲18.2	▲11.8	6.4	▲14.3	↘
	卸売業	▲15.8	4.0	19.8	0.0	→
	小売業	▲12.5	▲4.5	8.0	18.2	↗
	サービス業	8.6	0.0	▲8.6	▲6.7	→
採算	全産業平均	▲12.0	▲16.9	▲4.9	▲2.1	→
	製造業	8.8	▲28.6	▲37.4	▲9.1	→
	建設業	▲54.5	▲29.4	25.1	▲14.7	↘
	卸売業	▲21.1	0.0	21.1	12.5	↗
	小売業	▲16.7	▲8.7	8.0	26.1	↗
	サービス業	2.9	▲10.0	▲12.9	▲13.8	↘

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲13・2
(前期比マイナス11・0ポイント)と
なった。産業別では製造業と卸売業と
小売業が前期から悪化している。

全産業の資金繰りDI値は、▲7・
4 (前期比プラス0・8ポイント)と
なり、産業別では製造業とサービス業
を除いた各産業でDI値が増加した。

全産業の採算DI値は、▲16・9
(前期比マイナス4・9ポイント)を
示した。産業別では建設業・卸売業・
小売業でそれぞれDI値が増加してい
るが、製造業ではDI値が大きく減少
した。

【回答企業のコメント】
・原材料の不足が売上の減少へと
つながり、業績と資金繰りいずれ
をも悪化させている(製造業)

・物価高騰への対策として、代替
品の活用を進めながら仕入先の
見直しや既存仕入品の価格交渉
を行っている(卸売業)

・業務の内製化に努めることでこ
れまで外注していた費用を削減
し利益確保ができるように会社
全体で取り組んでいる(小売業)